

万全ですか？

地震対策

固総務課 ☎(50)1201

昨年の熊本地震のように、地震は、いつ、どこで、どのくらいの規模で発生するのかわかりません。被害を最小限に抑えるには、事前の備えと一人ひとりが慌てず適切な行動をとることが極めて重要です。

そのため、皆さんが地震に関心を持ち、いざという時に落ち着いて行動できるように、日頃から地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。



発災前の備え

工夫してありますか？ 家具の置き方

地震で負ったけがのうち、約4割は家具類の転倒・落下が原因と言われています。大地震では、多くの人が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしたりしました。大地震が発生したら「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策をしましょう。

◇家具が転倒しないよう、家具は壁に固定しましょう

◇寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。置く場合も、なるべく背の低い家具にする

◇口をふさがないように、家具の

向きや配置を工夫しましょう

◇手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう

十分ですか？ 水や食料などの備蓄

おおむね3日分、可能であれば7日分の食料や飲料水、生活必需品を各家庭で備蓄しておきましょう。常備薬、アレルギーに対応した食べ物などは、多めに準備しておきましょう。

市の備蓄は、食料で約8千食です。住家被害が甚大で避難生活が必要な人への対応が中心となりますので、各家庭、地域などでも備蓄対策をしてください。



■普段の食料で備蓄を

備蓄用の商品でなくても、通常のレトルト食品、インスタント食品などの買い置きを量を増やす、冷蔵庫内に普段から食材を多めに確保しておくなど、日常の生活で消費する食品を上手く使用することで非常時の食料を確保できます。

■お風呂は貴重な「水がめ」

お風呂には約200リットルの水をためることができ、物を洗ったり、トイレで活用したりできます。

また、簡易トイレの代用として、大きめのポリ袋・トイレペーパー・大人用のオムツなどを用意し、自宅の便器を利用して非常時のトイレとして活用できます。

設立しましたか？
自主防災組織

自主防災組織とは、市民が自主的に連携して防災活動を行う組織のことです。組織として役割分担や連絡網ができていれば、助け合いがしやすいです。特に、一人暮らしの高齢者や幼い子どもを抱える家庭では、災害時の避難に十分な備えが必要です。

新設の自主防災組織は、市から20万円を限度として、ヘルメットや担架などの防災用資機材の支給が受けられます。自主防災組織を新設する場合は、ぜひ相談ください。

発災後の行動

まずは、身の安全を確保

大地震が発生した時は、周りの人にも声を掛けながら、慌てずに、まず身の安全を確保しましょう。

シエイクアウト→3つの基本動作

姿勢を低くする

体・頭を守る

揺れが収まるまでじっとする

■家庭では

◇頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる

◇慌てて外に飛び出さない

◇無理して火を消そうとしない

◇屋外では

◇ブロック塀の倒壊などに注意

◇看板や割れたガラスの落下に注意

◇丈夫な建物のそばであれば建物の中に避難する

◇自動車運転中は

◇ハザードランプを点灯し、周りの車に注意を促す

◇急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす

◇周囲の状況を確認し、道路の左側に停止する

徒歩帰宅者を支援します

災害時には、公共交通機関が途絶え、多くの人が徒歩で帰宅すると考えられます。千葉県を含む九都県市では、コンビニ、ファミリースタンドなど徒歩帰宅支援に関する協定を締結しています。これらの店舗では、災害発生時に水道水の提供

このステッカーが目印

コンビニエンスストアなど

災害時徒歩帰宅者支援ステッカー

千葉県石油商業組合に加盟する県内のガソリンスタンド

※九都県市：千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、さいたま市、横浜市、川崎市、相模原市

トイレの使用、道路交通情報などが可能な範囲で提供されます。

該当店舗には、「災害時徒歩帰宅支援ステッカー」が掲示されています。日頃から帰宅経路の店舗の場所を確認しておく

と安心です。

イラスト提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議